東京国税局管内納税貯蓄組合連合会　優秀賞

「チゴガニの踊る海と、未来へ架かる橋」

足立区立 伊興中学校

三年　石渡　結人

先日、私はおじいちゃんとお父さん、そして二人の弟と一緒に、三浦市にある「小網代の森」を訪れた。豊かな緑に囲まれた木道を下っていくと、目の前に美しい干潟が広がった。泥の上をよく見ると、小さなチゴガニたちが一斉に白いハサミを上下に振って、まるでダンスをしているかのように動いている。それを見つけた弟たちは「カニが踊ってる！」と大はしゃぎし、私とお父さんも笑顔で見守っていた。みんなで賑やかに楽しんでいた時、おじいちゃんが干潟の方を指差して、「今度ここら辺に大きな橋ができるらしいぞ」と教えてくれた。

最初は「なぜ、あのチゴガニたちが暮らす美しい自然の場所に、わざわざ人工的な橋を造るのだろうか」と思った。弟たちが喜んでいるこの景色が壊れてしまうのではないかと、少し悲しい気持ちになった。あのおじいちゃんの一言が頭から離れず、帰宅してからくわしく調べてみることにした。すると、そこには私たちの命や生活を守るための「税金」の重要な役割が深く関わっていることが分かってきた。

三浦半島の先端エリアは、現在、観光シーズンになると激しい道路渋滞が発生し、住民の生活や物流に大きな支障が出ているという。さらに深刻なのは防災面だ。もし大きな地震が起きて現在の主要道路が崩れてしまったら、地域全体が孤立し、救急車や支

援物資が通れなくなってしまう。つまり、この橋を中心とした新しいバイパス道路を整備することは、人々の命を守る「命のルート」を確保するために必要なことであり、そこには国や県から莫大な税金が使われているのだ。

さらに驚いたのは、その税金の使われ方だった。当初は海岸線を埋め立てて道路を造る計画だったそうだが、それでは森の貴重な生態系が壊れてしまう。そこで行政は、あえて多くの税金をかけてでも、森を避けて海の上を長い橋で一気にまたぐ方法を選んだのだ。それだけでなく、橋の高さを低くして景色を守ったり、工事の後に植物を再生させたりする環境保全にも税金が使われている。税金はただ便利な橋を造るだけでなく、私たちが見たあの干潟を守るためにも使われていたのだ。

税金のおかげで、私たちは災害から命が守られている。しかし同時に、もし税金がなければ、目先の利益を優先して貴重な自然を失っていたかもしれない。税金とは、今を生きる私たちの安全な暮らしを支えると同時に、美しい地球の宝物を次の世代へ引き継ぐための「未来への投資」なのだと強く実感した。

おじいちゃんやお父さんと話し、弟たちが笑顔で眺めたチゴガニのダンスが、何十年先も変わらずあの干潟で見られる社会であってほしい。私も将来、税金を納める一人として、人の命を守り、美しい自然や思い出の景色を未来へ受け継ぐ社会を支えていきたい。